

作家名 林 孝彦 / HAYASHI Takahiko

題名 ウケヒテ ウマム

限定 /60

技法 エングレービングによる銅版画
紺雁皮紙シンコレ刷り

イメージサイズ 19.8 x11.7 cm

***略歴**

1961年岐阜生まれ、画廊での個展を中心に発表。個展は通算179回(うち海外17回)
近年は、グローバルにグループ展やアートフェアへも出品するとともにSNS (tumblr, instagram, pinterest など) を通じた online 作品発信を続ける。
上記3つのフォロワー数は合わせて2万8千人超。

***パブリックコレクション**

国立国際美術館、東京都現代美術館、大阪府立現代美術センター、滋賀県立近代美術館、岐阜県美術館、美濃加茂市民ミュージアム、豊橋市立美術博物館、黒部市立美術館、セゾン美術館、ブリヂストン美術館、東京オペラシティアートギャラリー、武蔵野美術大学資料図書館、佐藤美術館、クイーンズランド州立美術館(オーストラリア)、ニューサウスウェールズ州立美術館(オーストラリア)、アルバータ州立大学(カナダ)、ポートランド美術館(USA)、ワシントン州スノホミッシュ郡美術館(USA)、ワシントン州米国会議図書館(USA)、国立台湾文学館、チェスタービーターライブラリー(アイルランド)、Oregon Health & Science University, Portland, OR (USA) DBG Architects, Portland, OR(USA), Jordan Schnitzer Print Collection, Portland, OR(USA)

心の中の『アマビエ』

疫病がはやったら、『アマビエ』を写して人に見せなさい。新型コロナウイルスの感染が拡大する中、江戸時代の妖怪にまつわる言い伝えが、現代においてなお、人々に広まっています。

そんな状況下での作品制作にあたっては、悩んだ。世にアマビエ画像があふれている。不安な時、人はむしろステレオタイプな形にすがりたいものだ。自分に果たして、多くの人の願いに寄り添う対象になりうるイメージが描けるのだろうか。

僕は、何を写す？具体的なモノを写すことを自分の表現としてきていない。下書きをして完成形をつくっていくプロセスすらとらない。いつも本番。その真剣さが命。混濁する思いのままを銅に彫る。浄化、願い、祈り、誓ふ(うけふ)・・・いろいろな言葉が浮かんでは消える。邪気を吹き飛ばす風、異界のもの、海の浄化する珊瑚、空気を浄化する植物、水を濾す(こす)魚のエラのような、澱む空気を切るシャープな羽のような・・・揺れる心を線で手繰る。手繰るように線を彫る。繊細さ、清涼さ、奥深さ、そうだ雁皮紙の紺紙を使おう。色は・・・宗教画っぽくなるのはさけない・・・。僕は結局、いつものように、たわいない日々を積み重ね描き彫る。

題名は『古事記』から頂いた。人に制御できない事態に対し、誓ひ「ウケヒ」とは神意に従うこと。「ウマム」は生みましょう。神の意志と言いつつ、自らこう言い放って生み出されたものは、きっとその通りになる。それが神意！的な楽天的原始コトダマ信仰みたいな考えに、環境や生活様式は変わっても、人は変わらないんだなあとちゃっかり頂いた。



作家ポータル : linktr.ee/Takahiko.hayashi